

## 2014年度 関西学院 聖和幼稚園 学校評価を終えて

聖和幼稚園は、120年を超える歴史の中で子どもを中心に考えたキリスト教主義による幼児教育を貫いてきました。そこで、この学校評価におきましても「キリスト教主義教育」を評価項目に選定し、本園の保育を省みております。また、文部科学省の「幼稚園における学校評価ガイドライン」に沿った項目としては、保育全般における「教育課程・指導（保育内容）」、家庭との連携を考えた「子育て支援」、子育て支援・親支援として「預かり保育」を設定し、重点項目には子どもたちの健康を守るための「保健管理」を設定しました。

本年度も保護者[今年度回収率73.2%（175/239）・昨年度回収率67.0%]、教諭[今年度回収率100%（21/21）・昨年度100%]のアンケート調査と客観性を持たせるために5年前から導入した教育学部教員、聖和短期大学教員、初等部校長、評価情報分析室副室長による「第三者評価／学校関係者評価」を今年度も実施しました。そこで、評価者の皆様による保育実践、施設等の参観、園長・副園長との懇談（保育内容・過去の評価に対して対応の確認）も行い、本園の教育理念・教育的姿勢においてもより深い理解をしていただくことができました。

今年度も本園の保育実践を客観的に評価してもらうために、年間2回の公開保育・研修を行いました。第1回は宗教保育実践者（キリスト教、仏教、神道）方々に参観していただき、保育後には本園の実践を踏まえて「愛情深い保育」の意義について討議をいたしました。第2回は幼稚園、保育園（認可園、小規模保育園、保育ルーム）、認定こども園等の実践者の皆様に参観していただき、保育後には「子どもたちのためのより良い環境設定」「園内研修」をテーマに本園の教諭も参加して充実した研修の時を持つことができました。これらの研修・実践の振り返り（日々の省察も含め）、教諭個人のキリスト教保育に対する意識向上の結果、今回の学校評価「キリスト教主義教育」「教育課程・指導（保育内容）」「子育て支援」「預かり保育」「保健管理」全ての項目において高い評価を得ることに繋がったと存じます。

今後も今回の高い評価に慢心することなく、一人ひとりの子どもたちが愛されていると感じられるキリスト教保育の研鑽に努め、保護者・学校関係者・地域の皆様と共に連携しながら、より良い幼児教育の実践を行いたいと考えております。今後どうぞよろしく願いいたします。

2015年3月27日

関西学院 聖和幼稚園  
園長 出原 大

## 学校評価シート

### 【キリスト教主義教育】

#### 現状の説明

聖和幼稚園は、下記の三つの教育方針を柱にしてキリスト教保育を行っている。

- ・ 子ども一人ひとりが、イエス・キリストによって啓示された神様の愛を感謝と喜びをもって受け止め、自らがかけがえのない存在であることを知る。
- ・ 子ども自身が、何事にも意欲的、主体的に取り組む自律的な精神を培うとともに、お互いの個性の相違や多様性を認めながら共に育ちあうことのできる思いやりの心を育む。
- ・ 神様の創造された自然の中でいろいろな体験を通し、豊かに情操を涵養する。

キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践においては、神から命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てていくキリスト教保育を行っている。教諭も日々、キリスト教保育の理念をもって実践に努めている。

今年度も『神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに「まなざし」を向けて保育する』ことを特に気をつけながら、今年度は、特に、キリスト教主義教育の大切な柱の一つである「子どもたち一人ひとりのあるがままを受け止める」視点で、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える援助を行っている。

本年度より保育日を変更したことから、昨年度まで日曜日に行っていた保育の中で大切に位置付けている礼拝は、本年度より土曜日、平日に行った。日々の保育でも形式にこだわらず（話し合いの中での祈り、食前の祈りなどを含め）礼拝を行っている。また、子どもたちは教諭と共に、友だちと共に、喜びを持って祈ることを大切にしている。

聖和幼稚園では、毎朝、教職員が心を合わせ祈りの時を持って保育、業務を始めている。そして、保育活動を担う教諭は、教師会でのキリスト教保育の勉強会、また、キリスト教保育の研修会にも参加している。

保護者に対しては、入園前の新入園児保護者会、新年度当初の保護者会総会でキリスト教保育についての話をしている。また、クリスマス前には、「アドベント保護者会」と称する礼拝・講演会を行っている。その他のキリスト教に関する行事（母の日、花の日、収穫感謝礼拝など）は園通信にて、由来、意味、大切にしていることなどキリスト教における人間観、子ども観と共に伝えている。

## 評価・分析（アンケート結果を含む）

- キリスト教主義教育（キリスト教保育）の実践は、幼稚園全体、つまり幼稚園教職員全員で、キリスト教主義教育（キリスト教保育）の理念の共有、そして実践が重要である。教職員は、教師会、教職員の朝の礼拝等でキリスト教主義教育（キリスト教保育）の大切にすることを確認し、共有している。
- 今年度も、具体的には『神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに「まなざし」を向けて保育する』ことを特に気をつけながら保育を行っている。そして、日々保育を①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育を行っている。園児への関わりは、日々の保育終了後、教諭一人ひとりが省察を行っている。
- 「キリスト教保育の理念の共有」の教諭のアンケートは100%肯定的に、キリスト教保育の根幹である「一人ひとり大切にし、愛情を感じられる教育の実践」も100%肯定的に回答している。教諭は、キリスト教保育の理念を共有し、一人ひとりの子どもをしっかりと受け止めて保育していることの自負が数値にも表れている。
- 保護者は「キリスト教保育の考え方の共有」では98.3%の保護者が肯定的に回答し「キリスト教保育で大切にしていること」を理解していただいていると思われる。また、「子ども一人ひとりを受け止めて保育をしている」では97.7%の保護者が肯定的に回答しており、キリスト教保育の実践も評価できると考える。

## 改善の具体的方策

- キリスト教主義教育に関しては、今年度も教諭も保護者も高い評価をしている。しかし、この現状に慢心してはいけないと考えている。「キリスト教保育の理念の共有」は、評価、分析から判断して、今まで同様、キリスト教保育の理念の共有ができるように、教諭に対しては、キリスト教保育の研修会に参加すること、日常の勤務においても理念の共有、キリスト教文化に触れる機会を持っていきたいと思う。また、保護者に関しては、毎年新たな気持ちで、講演会、手紙等からキリスト教保育の大切にしていることを伝えるようにしていく。
- 「一人ひとりを受け止めて保育する」ことは、日々の保育の中で、一人ひとりに目を向け、あるがままを受け止め、①「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく ②「よくここまで育った」と観る教育観で ③「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育をおこなっているかどうか、省察し、自己研鑽をしていく。

### 第三者評価／学校関係者評価

- キリスト教主義保育の教育観や、一人ひとりの園児に愛情深く接しておられる日々の実践が、保護者に理解され、先生方と保護者との強い絆を作っているという点について、大いに評価されます。昨年度に続く高い評価ではありますが、昨年度より一歩踏み出した具体的な改善の方策を検討されると、さらなる発展に繋がると思われます。
- 聖和幼稚園のキリスト教保育の実践は、理念を共有した教職員集団の創り出す具体的な教育活動の計画、省察、研修会の積み重ねと共に、日々、保育前の「祈祷会」を共有して日々の保育が開始されており、園内の人的環境としての共感的、受容的な教育的雰囲気子ども一人ひとりの安心感、意欲を支え、充実感、達成感を支援する重要な園生活の場として継続されていることが、日常の保育、諸行事の参観を通して実感することができます。昨今、公的機関のアンケート調査から、日本における小・中・高生の心の成長面の課題となっている「自己肯定感」、「生きる力」の育成の観点から、聖和幼稚園のキリスト教保育の実践は、高く評価できます。今後も、長期に渡り同職場で勤務している経験豊富な教諭に恵まれた園ですが、日々新たに、キリスト教保育の場に託されていることに感謝と使命感をもって互いに尊重し合い、保育の質の向上に努め、保護者への啓蒙を大切に「共に育ち合う園づくり」をしていくことができるように期待されます。
- 子どもたち一人ひとりに、あたたかな眼差しが向けられています。
- 個を尊重した中にも、子ども間交流が大事にされていることが伝わってきます。「一人ひとりを受け止めて保育する」。キリスト教主義教育の実践の高さを、今年度のように広く社会に発信することがさらなる充実に繋がると思われます。
- 三つの教育方針のもと、「神さまから命・個性を与えられている子どもたち一人ひとりを大事に守り育てる保育」を全教諭が一致して実践し、保護者からも理解を得ていることがアンケート結果でも分かります。また日常の保育はもちろんのこと、キリスト教行事を行う際に園通信でその意味やキリスト教主義教育との関連を丁寧に伝え、保護者のキリスト教主義教育への理解を深めることに努めていることは評価できます。今後は、キリスト教主義教育を実践するための土台である理念のさらなる理解と共有について、教諭一人ひとりの自己省察や自己研鑽にとどまらず、特に理念と保育実践の関連についての具体的な研修を園全体で丁寧に実施していくことを期待します。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【教育課程・指導】

#### 現状の説明

聖和幼稚園はキリスト教保育を実践している。

教育方針は、「キリスト教主義教育」の項目でも触れたとおり、聖和幼稚園はキリスト教保育を柱にして教育課程を作成し指導計画を立てている。そして、月案、週案、日々子どもの育ちを把握し子どもの姿に応じて日案を作成し保育実践をしている。週案では一週間を振り返り子ども一人ひとりの子どもの姿を記録して、省察している。

今年度は、保育日、保育時間を変更した。日曜日が休園日となり、日曜礼拝を土曜日に行うこと、保育時間が2時までの保育日が週4日になる。教育課程、指導計画の見直しを行った。

昨年度まで毎日曜日に礼拝をおこなっていたが、そのカリキュラムは、今年度は月2回の土曜礼拝、平日の礼拝に変更した。平日の保育時間の延長で、より一人ひとりに応じて、ゆったりと保育を行うことができている。

教師会では園児一人ひとりの育ちについて、日々のカリキュラムについて、行事に関しては、「その行事が子どもたちにとってどうなのか」「なぜ、その行事を行うのか」等、理念、内容の問い直しから話し合っている。

また、日々の教諭同士の話し合いでは、子どもの育ち、援助について丁寧に話し合っている。

保護者には、月の保育目標、活動内容を、毎月発行する園通信にて伝えている。また、facebookにて日常の保育の様子を紹介している。

聖和幼稚園の保育内容は一人ひとりのあるがままを受け止め、育ちを大事に考え、遊びを中心とした、ゆったりとした保育計画を立てている。そして、外遊びを重要に考えており、その機会と環境を整えている。

幼児教育は、環境による教育といわれる。教諭は、人的（自分自身）・物的環境について、日々、子どもの姿と自分自身の保育のあり方を省察している。

保育環境整備において、教諭は、子どもの発達に応じた、環境のあり方、遊具・教材についての研究を行い、保育環境を整え、日々の保育に活かしている。そして、園児の育ちに応じて必要である遊具・教材は教師会で検討し購入している。また、遊具は使用不可になった場合も随時入れ替えを行い、教材が不足した場合も随時補充を行っている。

## 評価・分析（アンケート結果を含む）

- 今年度は、保育日、保育時間を変更した。日曜日が休園日となり、日曜礼拝を土曜日に行うこと、保育時間が2時までの保育日が週4日となり、教育課程、指導計画の見直しを行った。平日の保育時間の延長で、今まで増して、一人ひとりに寄り添い、ゆったりと保育を行うことができています。
- 今年度も『神様、イエス様に愛された子どもたち一人ひとりに「まなざし」を向けて保育する』ことに特に気をつけながら、「自主的に育つ」「共に育つ」「喜びを持って育つ」に加えて、「できる」「できない」に価値を置いた教育観ではなく、「よくここまで育った」と観る教育観で「達成感」「充実感」を味わえる心を支える保育を行っているかをポイントとして保育を省察している。また、教諭は、園内研修、保育理念、保育内容に関する外部の研修会に出かけ保育の専門性を高めている。そのことが功を奏して、本年度も子どもたち一人ひとりの発達に応じて、園生活の中で自主的、意欲的に活動する姿が確認できた。また、教諭のアンケート結果からも保育理念から保育計画を立案し、子どもの意欲、主体性を育む保育内容を実践していることが分かる。
- 物的環境においては、教諭が意識を持ち、教材・園庭環境研究を行っている。そのことが保育環境の充実につながっていると考えられる。これらについて、アンケート結果からもほとんどの保護者が肯定的に回答している。

## 改善の具体的方策

- 今年度は、保育日、保育時間を変更し、教育課程、指導計画の見直しを行った。3学期終了後、見直した1年間の教育課程を評価・分析を行い、次年度の教育課程、指導計画を立案する。
- 保護者、教諭も高い評価をしていることから、現在行っていることを継続し、さらに子どもを見る目、理解する力、関わる力を深めていく姿勢が必要である。
- 保育の質、専門性を高めるために、来年度も研修会、研究会、学会への参加を積極的に行いたい。来年度は3名の教諭が学会での発表を計画している。教諭一人ひとりが研鑽し、保育の専門性を高め、園全体の保育の質を高めていきたいと考えている。

## 第三者評価／学校関係者評価

- 一人ひとりの発達に応じた子どもの意欲や主体性を育む保育が実践され、ほとんどの保護者から肯定的回答を得ていることは、大変評価できると思います。教諭の研修会や学会などの参加による研鑽を、園全体で具体的にどう活用していくかを考え、さらに質の高い保育を目指してほしいと思います。
- 今年度の保育日、保育時間の変更と共に、創立より継続してきた日曜礼拝を本質的な理解を基盤にしつつ土曜日に移行したことにおいては、現代の子どもの生活、育ちの観点等から多面点に十分に検討を積み重ね

てきたことが伺え、礼拝後に 11 時まで園庭で遊ぶ時間を設けたことから家庭との連携も充実した状況となっており、教諭各自も日曜日の教会の礼拝開始から参加できることを含め、良好な改善であると思われま

- 研修会への参加、研究発表も継続されており、保育の多面的な研鑽がなされていることは園全体としての「保育の質」向上に繋がり評価できますが、さらに今後は、この「保育の質」についての協議を十分に行い、教諭の質問項目に反映して省察・評価の資料にする等の検討を望みます。
- 現場で理念が共通理解、共通実践されていることを実感します。子どもたちの喜々とした表情から、活動意欲と主体性が最大限に生かされていることが見て取れます。皆で協同する準備と後始末も見事です。取り組みの発表の場、外にむけての研究大会を期待します。
- 今年度は保育時間の変更に伴い教育課程、指導計画の見直しを行い、子ども一人ひとりの発達に応じた指導がさらに可能となったこと、また教材や園庭環境研究を積極的に行うなど保育環境の充実に努め、特に重視している外遊びのための環境整備に日々努めていることが評価できます。保育の質を高めるために各教諭が研修会、研究会、学会などに参加されていますが、それら各教諭の研究や研修の成果を個々の保育実践に活かすだけでなく、園全体で共有し、園全体の保育の質の向上に向けて園内研修を充実させていくことを期待します。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【子育て支援】

#### 現状の説明

- 子どもにふさわしい遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。
- ・ 幼稚園児に関しては保育日（月～金曜日）の保育後から 17 時まで園庭開放を行い、保護者と共に子どもたちが遊べるようにしている。また、春休み、夏休み、冬休みの長期休暇に関しても日にちを決め、9時から17時までに行っている。
  - ・ 地域の未就園児、地域の子どもたちに関しては、保育を行っている日（土曜日、行事等を行っている日は除く）の 8 時 30 分から 17 時まで、園庭開放を行っている。
  - ・ 以下に今年度の在園児以外の園庭開放利用者集計表を示す。

園庭開放利用者集計表										
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
未就園児	41	36	53	36	29	79	44	49	21	388
小学生	174	125	172	120	25	127	140	193	216	1292
	215	161	225	156	54	206	184	242	237	1680

- ・ 在園児は、保育後、家庭の事情に合わせて、園庭に残って遊んでいる。
- 保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努める。
- ・ 聖和幼稚園では、登降園時保護者が送迎をすることになっている。教諭と保護者が直接に顔を合わせて話し合いの時間が持てるようになっており（登園時は連絡事項程度）、教諭はこの時間に保育中の子ども様子を伝えたり、家庭での様子について尋ねたりと、保護者と子育て・教育に関するコミュニケーションをとっている。この連携は、より良い子育て、教育の鍵となる事柄として重要視している。また、必要な場合は時間を設け、懇談を行った。
  - ・ 1月に鯨岡峻氏を招いて、保護者会講演会を行った。「子育てにおいて、一番大事にしたいこと」をテーマにお話いただき、子育ての良い示唆が与えられた。
  - ・ 保護者からの申し入れがあれば、担任、補助教諭、園長、副園長と子育て、発達相談ができる体制にしている。
  - ・ 発達相談においては、専門的な視点で相談できる心理士に指導をお願いしており、受付に「子育て相談箱」を設置して、保護者からの希望があれば園を仲介して個別相談することが可能になっている（心理士は月4回以上来園）。今年度、12月までの相談件数は、15件であり、心理士、園長、副園長が対応した。

## 評価・分析（アンケート結果を含む）

- 子どもの遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。  
園庭開放の利用者数から考えると、地域に根付いた幼稚園、子どもの園が定着してきていると考えられる。また、アンケート結果が、教諭全員、保護者の97.7%が肯定的な回答していることから園庭開放が定着してきていると判断できる。  
12月までの小学生1292名、未園児の親子388名が園庭開放を利用している。この部分の評価は、アンケートには表れていない。しかし、この園庭開放は地域の子どもたちに遊び環境を提供し、社会貢献をしている。
- 保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努める。  
教諭全員、保護者の96%以上が肯定的な回答をしていることは、一定の評価ができる。  
アンケートの対象の保護者が一部違うので比較はできないが、昨年のアンケート結果より肯定的な回答が3.7%良くなった。昨年度の改善の具体的方策が功を奏しているとも考えられる。  
保護者の子どものことについての悩み、相談は、一人ひとりしっかりと受け止めることが重要である。否定的な回答をしている保護者もいるので、その点は努力していくことが必要である。

## 改善の具体的方策

- 子どもの遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。  
小学生の園庭開放の問題は、地域社会の幼稚園で子どもを育てる視点で、今まで同様に対応していく。
- 子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。  
今年度同様、今後も保護者が子育ての悩み、発達の相談がしやすい雰囲気幼稚園が作り出していく努力をする。

## 第三者評価／学校関係者評価

- 放課後の安全な遊び場が少ない子どもたちにとっての園庭開放は、地域の方々にとっても非常に有意義であると思います。また、保護者の送迎時にコミュニケーションをとることや、子育て相談箱を通じた発達相談など、保護者が相談しやすい状況作りに努められていますので、今後もさらに連携を深めていただきたいと思います。
- 子育て支援においては、子どもの視点に立った保育環境、実践、相談の体制を整え、特に、教諭は、キリスト教保育方針の一人ひとりの子どもの理解に基づく保育に努力を重ねていることから、保護者も肯定的な評価をしていることが伺えます。但し、他の項目と比較して、「強く思う」より「どちらかといえばそう思う」の回答の多い質問8、「子どものこと、子育て、発達の相談ができる」の回答からは、単なる「強く思えない」否定的評価ではなく、「信頼する先生方とのコミュニケーションを期待する声」であると考察できます。今以上に個別の保護者との対話時間の確保に関しては、勤務体制との関係で困難な事情であることは否め

ませんが、このパーセントに託された保護者の思いに向き合い、子ども理解を深める改善策の対象として捉えていくことも必要かと思えます。

- 保育後の園庭開放は多くの利用者があり、地域社会との関係性の良さを感じます。地域の大きな信頼は、こうした日常の積み重ねから生まれるものなのでしょう。発達相談の対応は、個々に求められる側面があります。聖和幼稚園ならではの「スタイル」や「スタンダード」の構築に期待したいものです。
- 室内でのゲーム遊びが増え、成長期にある子どもにとって重要な体験の場となる外遊びの機会が減少している現在、未就園児や小学生を含む地域の子どもたちに自然が豊かな園庭を開放し、多くの子どもたちに利用されていること、またアンケート結果でも保護者から高い評価を得ていることは、優れた社会貢献として大いに評価できます。保護者の子育ての悩みなどへの支援については、発達相談ができる心理士を置くなど手厚い支援体制を整えておられますが、今後は、保護者がさらに利用しやすく相談しやすい環境や体制を整えていくことを期待します。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート

### 【預かり保育】

#### 現状の説明

昨年度より、隣接する大学院棟1階に預かり保育専用の保育室（以前保育室として使用した部屋）を確保した。また、保育用の机、椅子、棚、遊具等を購入し物的環境を整えた。そのことにより、預かり保育の保育準備が丁寧に行えるようになり、保育内容も充実した。

昨年度の促進させる方策、改善に向けた方策に挙げていた、「新入園・進級当初、通常、春休み、夏休み、冬休みと子どもたちの育ち、時期等に気をつけて検討していく」ことは、時期、学年等考慮しながら検討を行った。

「人員配置」は、預かり保育専任の教諭2名、補助教諭3名担当が担当した。さらに、人数に応じて（子ども15名に保育者1名以上が保育にあたる体制にしている）補助の教諭が入るようにしている。特に、外遊びの時は子ども10人に保育者1名以上が保育にあたる体制にして人的環境を手厚くした。

夏休み・冬休みの預かり保育の体制は、利用を希望する日を事前に調査し体制を整えた。利用者が多かったため、保育者全員が夏休み、冬休み中の預かり保育を担当して援助体制を整えた。また、「預かり保育実施と長期休暇中は、教諭の研究会、研修会が多く、教諭は専門性を高めるために自己研鑽する時」の問題は、多くの教諭の研究会、研修会に参加する日は、予め預かり保育は実施しないと事前に保護者に伝えることで対応した。

#### 評価・分析（アンケート結果を含む）

- 預かり保育専用の保育室の確保、環境整備も充実し、保育の流れ、保育内容も年度毎に検討をしているので、より良い保育内容になっていると考えられる。保育者のアンケートも全員が肯定的な回答をしている。
- 預かり保育の人員配置を充実できたので、一人ひとりに丁寧に関わることができた。
- 保育内容は99.4%の保護者が肯定的に回答している（昨年度は94.8%）。これは、新入園・進級当初、通常、春休み、夏休み、冬休みと子どもたちの育ち、時期等に気をつけ、一人ひとりに援助が行き届くために人員配置を手厚くし保育を行ってきたからであると考えられる。また、通常保育後の過ごし方、外遊びの重要性が理解されてきたことも一つの要因と考えられる。

#### 改善の具体的方策

- 保育内容は、今までと同様に、新入園・進級当初、通常、春休み、夏休み、冬休みと子どもたちの育ち、時期等に気をつけて検討していく。
- 春休み、夏休み、冬休みの長期休暇中の預かり保育は、利用者の人数が多い場合が多い。夏休み・冬休みの預かり保育の体制は、利用を希望する日を事前に調査し体制を整える。

### 第三者評価／学校関係者評価

- 時代のニーズにこたえ、保育室の環境整備や担当教諭の人員確保など、いろいろな問題を解決しながらの預かり保育の実践は、大変評価できると思います。通常の保育に重点を置いた上での預かり保育と思いますが、さらなる保育内容の向上を期待しています前年度の課題であった教諭研修期間と「夏休み・冬休み中」の預かり保育との関係は、事前に保護者に伝達をして理解を得た対応によって教諭が集中して研修に臨むことができたことから、望ましい改善策であったと評価できます。
- 「預かり保育」の実際を観察して実感したことは、昨年度から、園庭からスムーズに入室できる保育室を確保し、保育後の子どもの生活プログラムに即した環境が整備され、送迎の保護者の一人ひとりが随時、対応する保育者と落ち着いてコミュニケーションをとり、配慮すべきことの伝達、保育中の様子なども報告する等、保護者との連携が十分に行っていたことです。また、当日、参加する子どもの人数に応じて、即、保育経験のある保育者の人数が整う体制のもとで、子どもの自主性、意欲を尊重する眼差しと援助が随所に観られました。さらに、小学校の児童も随時「こんにちは」と挨拶をして来園し、園庭の使用中は、児童が幼児への配慮をさりげなく行いながら活動する姿が見られる等、幼児・児童の関係も継続的な預かり保育の中で育ち合ってきている面が見られました。また、参観当日は、父親の参加もあり、子育て支援の役割を担った場としての預かり保育の機能を果たしている点から順調に進展していると思われまます。
- 預かり保育をする「ぶどう組」専用の保育室、保育者の体制、そして保育内容の充実が聖和幼稚園の魅力を高めています。保護者の実情に対応する難しさがあることでしょう。子どもの外遊び環境を考慮した終了後の保育は、バランス良きものです。長期休暇中の預かり保育など、保護者のライフスタイルに応じたニーズも視野に入れることが望まれます。
- 預かり保育専用の部屋が確保されたことにより、通常の保育からの移行がスムーズに行われるようになったこと、また預かり保育専任教諭、補助教諭を配置し、受け入れ体制をさらに整備していることは評価できます。今後は、預かり保育の特性を活かし保育内容を充実させていくことを期待します。

2014 年度学校評価

## 学校評価シート(重点的な課題)

### 【保健管理】

#### 重点的に改善に取り組んだ課題

- 園児一人ひとりの食物アレルギー、その他のアレルギー、アナフィラキシー等を把握し、聖和幼稚園でできる範囲の対応をする。※保健管理は3項目で目標を立てたが、重点的な課題は「子どものアレルギー等の対応」とした。

#### 具体的な取り組み内容

- 園児一人ひとりの様々なアレルギーを、年度毎に保護者より預かった「園児生活調査表」で把握している。必要であれば、配慮・対応を具体的に保護者より聞く。
- 園児一人ひとりのアレルギーの情報は、クラス担任だけではなく、幼稚園の全教職員で共有している。
- おやつ、愛餐会のカレー、クリスマスの会食、キャンプの食事、餅つきをして食べる際のしょうゆ、きなこ、あんこ、のりの原材料等、成分表を公開している。そして、代替、除去等、幼稚園でできる範囲の対応を行った。
- 食物アレルギーの園児は、おやつに関しては、「おやつ表」にて、月ごとに、何日にどのおやつを食べるかを伝え、食べられるか、代用、家庭から持参かを把握して、対応している。
- おやつは、全園児が食べられるように、添加物、刺激物のできるだけ少ないものを選ぶ配慮をしている。
- 年度に始めに、園医より「エピペン」使用の講習会を受けている。
- 園医より、「アレルギー緊急時対応」について、具体的な指導を受けている。

#### 取り組み内容に関する評価・分析

- 園児一人ひとりのアレルギー対応は、今の段階で、幼稚園でできる範囲のことはしている。アンケートは、教諭は100%、保護者も98.8%が肯定的に回答している。そのことから、高い評価は得ていると推察できる。

#### 促進させる方策、改善に向けた方策

- アレルギーは、子ども一人ひとり違う。それに伴い、対応も違ってくる。また、子どもの成長と共に変化する場合もある。園児の健康に関することであるので、幼稚園だけで判断できないこともある。今後も園医、関西学院の保健館と相談し、幼稚園で対応できること、できないこと、対応してよいこと、してはいけないことを明確にして、対応する場合は、細心の注意をもって対応していくことにしている。
- 来年度も園医によるアレルギーに関する講習会を計画し、また、外部の

研修会に積極的に参加し、最新の情報を得ていきたい。

### 第三者評価／学校関係者評価

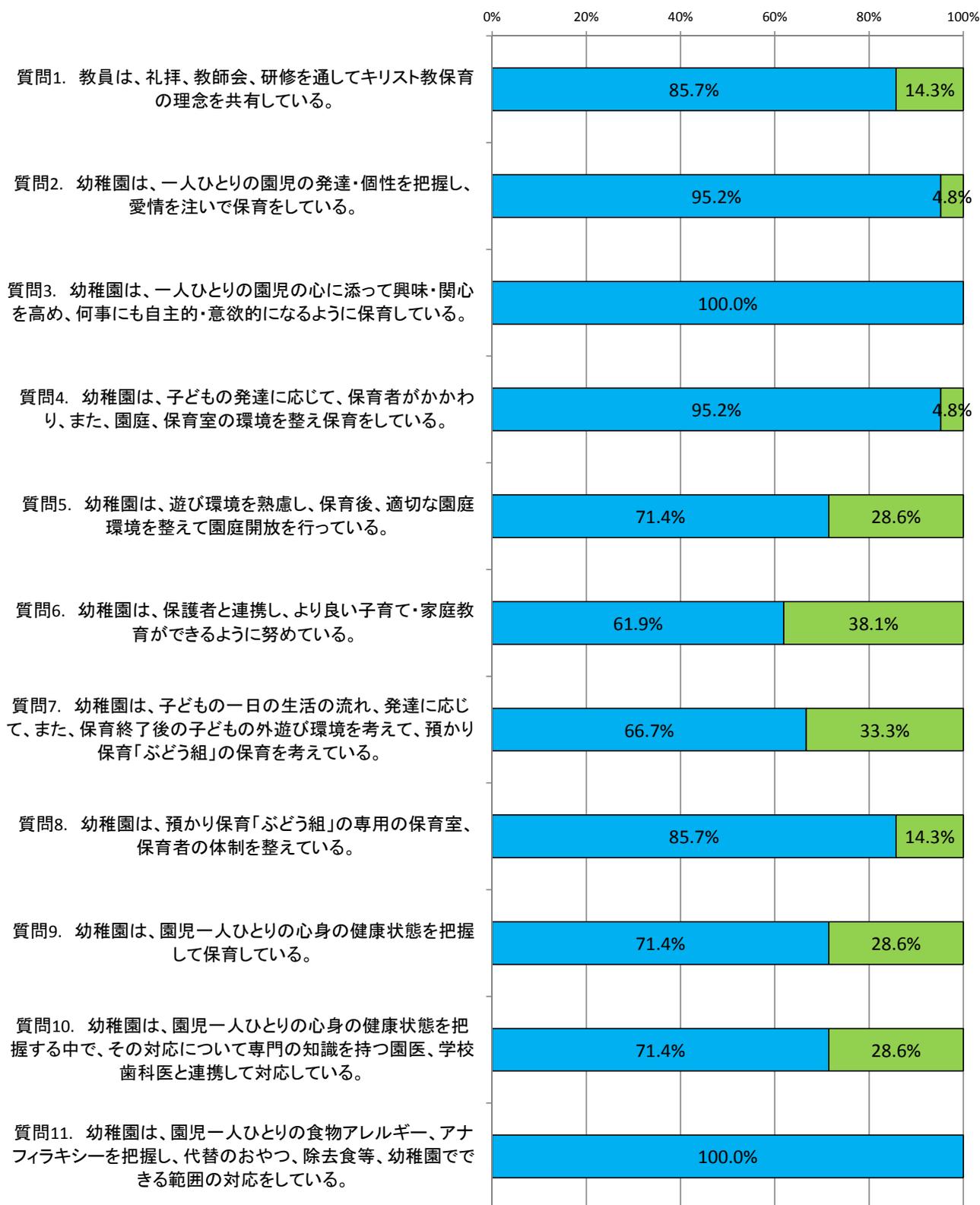
- 園児一人ひとりのアレルギー対応は、保護者、園医、関学保健館と連携し、全教職員で情報を共有しながら、かなり緻密に実行されていると推察します。少しの気の緩みが事故に繋がることもありますので、ご苦勞も多いとは思いますが、今後も毎日の配慮や研鑽に努めていただきたいと思います。
- 多様な食物との関わりから発症するアレルギー症状に対しては、家庭からの情報をもとに、ありのままの実態を把握した対応に努めると同時に心理面の配慮、クラスの子どもたちとの関係等を踏まえた対応が求められますが、従来からの経験に踏まえて、講習会を積み重ねるなどの努力によって良好な状況にあると思われます。
- 子どもの保健管理に関しては、各家庭での過ごし方との関係から家庭との連携が重要になりますが、今後も医療面での最新の情報を得る研修、園医の指導を得ながら、特に、一人ひとりの「いのち」の尊厳に努める保育者集団として、自己の健康管理にも努め、保育に臨むことが求められています。
- 園児一人ひとりの生命の安全と健康保持は、保育の基本です。その中でも保護者の食物アレルギーへの関心は高く、現場を知る者としてその困難さを実感します。専門的見地を交えての保育者との連携、緊急時の組織対応を含め、日頃からの危機管理を充実させることが求められます。
- 子どものアレルギー症状が複雑化し対応がますます難しくなる中、園児一人ひとりのアレルギー情報を把握し、そのつど園医や関西学院保健館に相談し、保護者にも連絡・確認をとりながら細心の注意を払って対応をしていることは評価できます。今後は、日々進歩しているアレルギーに関する知識や対応方法などについて、外部での研修会に積極的に参加して最新の情報を得、園内での共通理解にさらに努めることを期待します。

2014 年度学校評価

2014年度 学校評価 実施項目一覧（聖和幼稚園）

大項目	小項目	目標	指標(教員用)	指標(保護者用)
幼稚園全般				1. 子どもは、幼稚園に行くのが楽しいと感じている。 2. 幼稚園の教育には満足している。
1. キリスト教主義教育 (継続)	キリスト教保育の理念の共有	教職員間でキリスト教保育の理念を共有する	1. 教員は、礼拝、教師会、研修を通してキリスト教保育の理念を共有している。	3. 幼稚園はキリスト教保育の考え方、大切にしていることを礼拝、手紙、話等を通して保護者と共有している。
	キリスト教保育の根幹である愛情を感じられる教育の実践	一人ひとり園児の発達・個性を把握して、子どもたちが愛されていると感じられる保育をする	2. 幼稚園は、一人ひとりの園児の発達・個性を把握し、愛情を注いで保育をしている。	4. 幼稚園は、子どもたち一人ひとりを受け止めて保育をしている。
2. 教育課程・指導 (継続)	各領域に主体的に取り組む姿勢を培う援助	園児が自律的な精神を養い、何事においても意欲的に取り組めるように援助する	3. 幼稚園は、一人ひとりの園児の心に添って興味・関心を高め、何事にも自主的・意欲的になるように保育している。	5. 幼稚園は、子どもたちの意欲や主体性を育む保育をしている。
		環境(人的・物的)を通しての保育を実践する	4. 幼稚園は、子どもの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育をしている。	6. 幼稚園は、子どもの発達に応じて、保育者がかかわり、また、園庭、保育室の環境を整え保育をしている。
3. 子育て支援 (継続)	園庭開放	幼稚園児の遊び環境を熟慮し、保育後の園庭開放を行う。	5. 幼稚園は、遊び環境を熟慮し、保育後、適切な園庭環境を整えて園庭開放を行っている。	7. 幼稚園は、子どもたちの遊び事情を考えて園庭開放を行っている。
	子育て・発達相談	子育て・家庭教育における相談、発達相談を随時受けられる体制を整える。	6. 幼稚園は、保護者と連携し、より良い子育て・家庭教育ができるように努めている。	8. 幼稚園は、子どものこと、子育て、発達について相談ができる。
4. 預かり保育 (継続)				9. 預かり保育「ぶどう組」を利用したことがある。
	子どもの外遊び環境、保護者の実情による預かり保育の実施	預かり保育「ぶどう組」の保育内容を検討する。	7. 幼稚園は、子どもの一日の生活の流れ、発達に応じて、また、保育終了後の子どもの外遊び環境を考えて、預かり保育「ぶどう組」の保育を考えている。	10. 幼稚園は、保育終了後の子どもの外遊び環境、育ち、一日の生活の流れを考えて、預かり保育「ぶどう組」の保育をしている。
		預かり保育「ぶどう組」を担当する保育者の体制を整える。	8. 幼稚園は、預かり保育「ぶどう組」の専用の保育室、保育者の体制を整えている。	11. 幼稚園は、預かり保育「ぶどう組」の専用の保育室、保育者の体制を整えている。
5. 保健管理 (重点)	日常の健康管理、疾病予防の取組	園児一人ひとりの健康状態を把握し、また、疾病予防の指導を行う。	9. 幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握して保育している。	12. 幼稚園は、子どもたちの心身の健康状態を把握して保育している。
	園医、学校歯科医との連携による健康管理、疾病予防の取組	保育者の対応できない怪我、疾病等について園医、学校歯科医に相談して最善の対応をする。	10. 幼稚園は、園児一人ひとりの心身の健康状態を把握する中で、その対応について専門の知識を持つ園医、学校歯科医と連携して対応している。	13. 幼稚園は、園医、学校歯科医と連携して子どもたちの健康管理、疾病予防に努めている。
	子どものアレルギー等の対応	園児一人ひとりの食物アレルギー、アナフィラキシー等を把握し、幼稚園でできる範囲の対応をする。	11. 幼稚園は、園児一人ひとりの食物アレルギー、アナフィラキシーを把握し、代替のおやつ、除去食等、幼稚園でできる範囲の対応をしている。	14. 幼稚園は、おやつ、愛餐会のカレー、クリスマスの会食、キャンプの食事等の成分表を提示し、代替、除去等、幼稚園でできる範囲の対応をしている。

2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・教員（回収率100% 21人/21人中）



■ 回答番号1: 強く思う                      ■ 回答番号2: どちらかといえば思う  
■ 回答番号3: あまりそう思わない       ■ 回答番号4: まったくそう思わない

2014年度 学校評価アンケート集計結果  
 幼稚園・保護者（回収率73.2% 175人/239人中）

